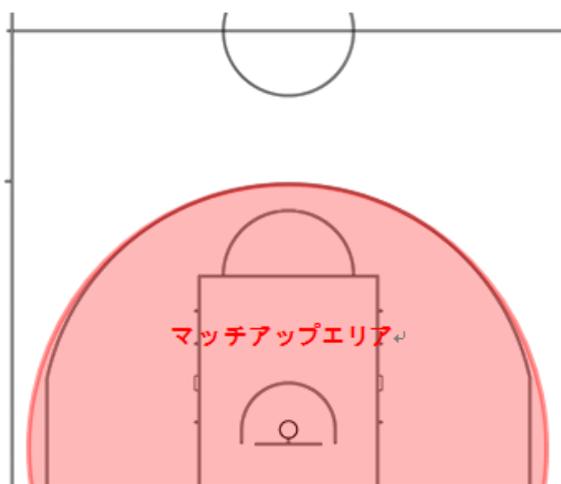


## マンツーマンディフェンスの基準規則

試合におけるマンツーマンディフェンス／ゾーンディフェンスの判定は、大会主催者が任命したマンツーマンコミッショナー（以下「コミッショナー」）が行う。

### 1. マッチアップ

全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップの基準はマッチアップエリア（3 ポイントラインを目安とする）内では常に適用される。ディフェンス側プレイヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン（指さしすること）により、明確に誰とマッチアップしているかが、コミッショナーにわかること。



### 2. プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時（フルコート、3/4 コート及びハーフコート）でもマッチアップの基準に合致すること。

注意点：様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である。

プレスディフェンス採用時の基準は以下の通りである（フルコート、3/4 コート及びハーフコート）：

・ボールを持っている選手をトラップすることは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実にに行い、コミッショナーにマッチアップが明確にわかるように行うこと。

### 3. オンボールディフェンス

ディフェンス側プレイヤーのポジションは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大 1.5 メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフェンス側プレイヤーがボールをレシーブした時、ディフェンス側プレイヤーがボールマンにつく意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジをすること。

#### 4. オフボールディフェンス

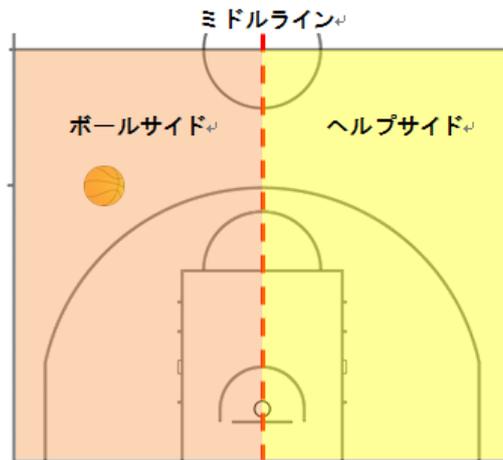
ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフェンス側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン(オフェンス側プレイヤー)及びボールも見えるポジションを取ること(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフェンス側プレイヤーが見えるポジションと一緒に動く)。ただし、フェースガードで守る場合はその限りではない。

ボールを保持していないオフェンス側プレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフェンス側プレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)である。ただし、ヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは違反である。



#### 5. ヘルプローテーション

ボールを持っていない選手にマッチアップするディフェンス側プレイヤーは、リングを守るために、オンボールディフェンス側プレイヤーをヘルプできる。

オンボールディフェンス側プレイヤーがペネトレーションを止められず、抜かれた場合、リングへ向かうドリブルペネトレーションに対しては、ヘルプディフェンスが許される。オフボールのオフェンス側プレイヤーが、リングへカットすることをヘルプすることも許される。

オフボールディフェンス側プレイヤーは、ヘルプディフェンスのために一時的にディフェンスポジションを変えること(ヘルプローテーション)が許される。ただし、ヘルプディフェンス後、全てのディフェンス側プレイヤーは、直ちにオフェンス側プレイヤーとマッチアップ(前記した方法で明確に)しなければならない。

## 6. スイッチ

スイッチはスクリーン、トラップ後、ヘルプ後と“ラン & ジャンプ”の状況で許されるが、オフボールオフフェンス側プレイヤーのポジションチェンジに対するスイッチは違反である。

ディフェンス側プレイヤーがスイッチした場合、プレー中に、ディフェンス側プレイヤーが直ちに新しいオフフェンス側プレイヤーとマッチアップ(前記した方法で)したことが、コミッショナーに認識できるように明確にすること。

## 7. トラップ

ボールを保持している選手をトラップすることは許される。ただし、トラップ後は直ちにマッチアップを明確にしなければならない。また、マッチアップが明確であればローテーションが許される。

### ※基準規則違反の罰則

ゲーム中はコミッショナーがマンツーマンディフェンスを監督・管理する。

コミッショナーがマンツーマンディフェンスの基準規則違反を察知した時は、審判に合図し(旗を振る等)、その直後のゲームクロックが止まった際に、審判は両チームのコーチを TO 席前に招き、コミッショナーから内容説明をした後に、審判が警告を与える。

(タイムアウトではないので、選手はコート上にて待機させる。コーチから選手に説明する時間が必要な場合、TO 席前にコート上の 5 人の選手を集め、速やかに説明を行う。)

その後の基準規則違反は、ベンチ(コーチ)のテクニカル・ファウルが適用される。

また、各運営団体の定める取り決めに従い、研修を重ねること。

### ※判定に際しての留意点

技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、すぐにゾーンディフェンスと判断せずに焦らずに見極める必要がある。

コミッショナーの役割はマンツーマンディフェンスを普及、推進し、円滑に試合運営を行うことが最大の目的であり、違反行為を取り締まることが目的ではない。違反が目立つ場合は、ピリオド間、ハーフタイムを活用し、コーチにしっかりと説明を行うこと。

## マンツーマンディフェンスの基準規則・補足解説

### ◆マンツーマンディフェンスの見分け方

- ・マンツーマンの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
- ・ボールや相手とともに動いている。
- ・相手チームのフロントコート内のマッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。  
(オールコート、ハーフコート等ディフェンスをし始める位置を定めない。)
- ・オンボールのマッチアップは 1.5m 以内を目安とする。(マッチアップエリア以外においては、スローインも含め、1.5m 以内は当てはまらない。)

### ◆ヘルプディフェンス

- ・ヘルプローテーション、スイッチを行うことは問題ないが、その後はすぐにマッチアップを明確にすること。
- ・ヘルプディフェンス後に、オンボールのプレイヤーに対してトラップになっても構わない。

### ◆ゾーンディフェンスの見分け方

- ・上記に反すること。
- ・ヘルプサイドにいるオフボールのディフェンス側プレイヤー(3線)の両足がボールサイドにある。
- ・オフボールのオフェンス側プレイヤーに対して、数的優位な守り方をしている。
- ・オフボールのスクリーンを伴わないポジションチェンジに対して、スイッチを行っている。  
(スクリーンがある場合にはスイッチが認められる。)

### ◆その他

- ・ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)を視覚的にわかりやすくするためにラインを引くことは可能とするが、競技時に支障のない色のラインとすること。

## マンツーマンコミッショナーの設置および競技会(試合)における運用について

### 〔マンツーマンコミッショナー設置の目的〕

マンツーマンコミッショナー(以下、「コミッショナー」)の設置の主な目的は試合における違反行為を取り締まることではなく、マンツーマンディフェンスに対する理解を推進し、円滑に試合運営を行い、より子供達がバスケットボールを楽しめる環境を構築すること。

### 〔マンツーマンコミッショナーの役割〕

- ・競技会(試合)において、「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則り、判定を行う。
- ・違反行為があった場合には、審判を通じて対象チームのコーチに警告を与える。(2回目以降の違反行為に対してはテクニカル・ファウル)※違反行為の数はコミッショナーが管理

### 〔運用方法〕

- ・競技会主催者は、大会要項に「マンツーマンディフェンスの基準規則」に則ることを記載する。
- ・試合が見渡せる場所(TO席側が望ましい)にコミッショナー席を置く。事前に両チームのコーチには着席場所を伝えておくこと。
- ・コミッショナーの人数については1名または2名とする。
- ・コミッショナーは違反行為が生じた際に「黄色(注意)」の旗を振り、コーチ・選手の対応を確認。改善しない場合は、「赤色(警告)」の旗を上げ、ゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、審判は両チームのコーチをTO席前に招く。コミッショナーは両チームのコーチに対して内容を説明する。
  - ※ゲームクロックが止まっている時にもかかわらず、審判が気付かない場合はブザーを鳴らすことも可とする。
  - ※悪質な違反行為については、「黄色(注意)」の旗を振らずに、「赤色(警告)」の旗を上げることも可とする。(試合終了間際など含む。)
  - ※使用する旗の色に関しては、主催者の判断で他の色に変更しても構わないが、事前にきちんと周知しておくこと。
- ・コーチから選手に説明する時間が必要な場合、TO席前にコート上の5人の選手を集め、コミッショナー同席のもと、速やかに説明を行い、試合を再開する。コーチからの要請がある場合やコーチが誤って伝達している場合には速やかにコミッショナーが説明をする。
- ・2回目以降の違反行為に対しては、コミッショナーからコーチへの説明の後、審判は対象チームのコーチにテクニカル・ファウルを適用する。
- ・試合中、審判とコミッショナーは密に連携を図り、可能な限り円滑に試合運営を行う。
- ・コミッショナーは、ピリオド間、ハーフタイム等も必要に応じてコーチ等とコミュニケーションを図り、円滑に試合を進めるよう努める。
- ・試合終了後、コミッショナーは速やかに競技会主催者(競技本部等)に報告する。
- ・故意的な違反行為があった場合、競技会主催者は、競技会終了後に所属都道府県協会のマンツーマンディレクター(および必要に応じて関係連盟等)に報告書を提出する。マンツーマンディレクターはJBAに報告書を提出する。

### 〔違反行為判定にあたっての留意点〕

- ・体力、技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意すること。

マンツーマンコミッショナーチェック表／報告書

1. 担当者

都道府県	コミッショナー氏名	コミッショナー氏名

2. 大会情報

大会名				試合区分	ミニ・中学（男・女）	
試合日	年	月	日	会場名		
チーム名	淡				コーチ氏名	
コーチ氏名	濃				コーチ氏名	

3. チェック項目（下記のチェック欄に「○」または「×」を記入）

項目	内容
1	マンツーマンの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
2	ボールや相手と共に動いている。
3	相手チームのフロントコート内のマッチアップエリア付近からは、少なくともマンツーマンディフェンスを始めている。(オールコート、ハーフコート等ディフェンスをし始める位置を定めない。)
4	マッチアップエリア内のオンボールには1.5m以内を目安としてマッチアップしている。
5	オンボールのダブルチーム(トラップ)は良いが、トラップが終息したら直ちにマッチアップを開始している。
6	ヘルプサイドのディフェンス(3線)がミドルラインをまたぎ越していない。
7	オフボールの選手に対して、数的優位な守り方をしていない。
8	オフボールのオフENSEのポジションチェンジにしっかり対応し、容易にスイッチしていない。

〔チェック欄〕

項目	1Q/1P		2Q/2P		3Q/3P		4Q/4P		延長1		延長2	
	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃	淡	濃
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												

4. 違反内容

チーム	Q/P	時間	警告内容	備考

5. 特記事項（故意的な違反行為等特に報告が必要な事項があれば記入してください。）

《報告・提出の流れについて》

①コミッショナー→競技会主催者 ※特記事項がある場合:②競技会主催者→都道府県協会のマンツーマンディレクター(および関係連盟等)、③マンツーマンディレクター→JBA